



2023年 5月 24日 担当 虻川

原油が反発、需給の逼迫意識で 金は反落

23日の国内商品先物市場で、原油は反発した。米国では今月29日のメモリアルデーより本格的なドライブシーズンが始まるとされ、ガソリン需要が増えるとの観測がある。また、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の一部が5月より自主減産していることも意識され、原油の需給逼迫感から買いが入った。

バイデン米大統領と野党・共和党のマッカーシー下院議長は22日、米連邦政府の債務上限引き上げを巡り会談した。合意には至らなかったものの、マッカーシー議長は「これまでにない良い雰囲気だった」と話したとも伝わっており、協議の進展への期待感が相場を支えた面もある。

金は反落した。日本時間23日午後の取引で米長期金利が上昇しており、金利のつかない実物資産を裏付けとする金先物の相対的な投資妙味が薄れるとみた売りが出た。

以下は主な商品（中心限月）の清算値。

| | | |
|-----|---------|--------|
| ・金 | 8727円 | 10円安 |
| ・白金 | 4632円 | 30円高 |
| ・原油 | 6万2100円 | 1420円高 |

・ゴム（RSS） 208.9 円 0.8 円安

・トウモロコシ 3 万 9520 円 620 円高

※単位は金と白金が 1 グラム、原油が 1 キロリットル、ゴムが 1 キログラム、トウモロコシが 1 トン。原油は東京商品取引所、それ以外は大阪取引所での取引。

日経新聞



2023年 5月 24日 担当 虻川

石油関連株が上昇 サウジ・エネルギー相が空売り筋に警告 = 米国株個別

エクソンモービル<XOM>やシェブロン<CVX>などの石油関連株が上昇。コモディティ市場で原油相場に買い戻しが強まっており、石油関連株も呼応している。サウジアラビアのサルマン・エネルギー相がタール経済フォーラムで、空売り筋に警告したことが買い材料となっている。同エネルギー相は「私は彼らに、彼らは痛い目に遭うだろうと忠告し続けている。彼らは4月に痛手を負った」と述べた。

OPECの事実上のリーダーであるサウジアラビアは、今月から実施された供給削減により、最近世界の原油市場を驚かせた国の1つ。

(NY時間 10:31)

エクソンモービル<XOM> 106.92 (+1.95 +1.86%)

シェブロン<CVX> 157.05 (+4.61 +3.02%)

シュルンベルジェ<SLB> 46.34 (+0.34 +0.74%)

オキシデンタル<OXY> 59.90 (+0.86 +1.46%)



2023年 5月 24日 担当 虻川

大日本印刷、毎日新聞社と企業・団体などの年史制作で協業

大日本印刷（株）と総合的なマーケティング施策を支援するグループ会社の（株）DNP コミュニケーションデザインは、（株）毎日新聞社と、企業・団体等の年史や記念誌等の制作に共同で取り組むことについて基本合意した。第一弾として、医療法人等に対して、コロナ禍の多様な課題にいかに対応したかといった知見などを後世に残す「コロナ記録集」制作の提案を5月15日に開始した。

企業や団体等が自らの歴史を描き出す社史・年史等は、理念の継承や次代の成長等にも役立つ重要な情報資産となる。その制作にあたっては、膨大な情報の収集・整理や原稿の執筆・編集など、多大な労力と長い制作期間がかかるという課題があった。こうした課題に対して今回、DNPグループの多くの社史・年史等の制作実績に基づく企画編集力等の強みと、毎日新聞社の経験豊富な編集人材や膨大な報道記事・写真等の強みを掛け合わせることで、制作負荷やコスト等を削減しながら、信頼性と品質の高い社史・年史・記念誌等の制作を実現していく。



2023年 5月 24日 担当 虻川

工庁の設備投資支援 石油協会、2次募集開始 洗車機、

ローリーなど9機器対象

| | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| <p>6月23日まで受け付け</p> <p>全国石油協会は、資源エネルギー庁が2022年度補正予算で手当てしたSSの事業再構築・経営力強化事業（設備導入等支援事業）の第2次募集を開始した。予算額は約20</p> | <p>億円。6月23日までの1カ月間、利用を募る。先着順で予算がなくなりしだい受け付け期間中でも終了する。応募多数による予算の案分は行わない。</p> | <p>の設備導入について資金面で支援する。支援対象は①カソリンバー②回収設備②地下タンク・配管の入れ替え③漏洩防止対策を含む地下タンク・配管の撤去④省エネ型洗車機⑤官公需システム⑥車番認証システムを含むPOSシステム⑦</p> | <p>省エネ型ローリー⑧タレット型給油許可システム⑨灯油タンクなどスマートセンサーの9設備としている。補助金の申請は、第1次募集の申請分を含め1事業者2SS、1SS当たり4設備までと上限を設定。補助率はほぼ各設備とも中小企業の新規申請者は3分の2、リピーターは2分の1、非中小企業の場合は新規申請者3分の1、リピーター4分の1を適用する。</p> | <p>例えば省エネ型洗車機の場合、補助対象経費の上限額は1SS当たり1500万円なので、中小企業の新規申請（補助率3分の2）では補助金の上限額は1000万円になる。官公需システムは、石油組合が申請対象のため補助対象経費の上限は3000万円。補助率は3分の2（リピーター2分の1）で、補助金の上限額は2000万円（1500万円）としている。</p> | <p>の石油協会の2次募集開始</p> <p>の設備投資支援</p> <p>洗車機</p> <p>ローリーなど</p> <p>9機器対象</p> |
|--|---|---|---|---|---|



2023年 5月24日 担当 虻川

1～3月のトラック運送業界景況感

商社・物流



1～3月のトラック運送業界景況感

判断指数悪化、マイナス34.8に

全ト協調査

価格転嫁に踏み込めず

全日本トラック協会（全ト協）が実施したトラック運送業界の景況感調査によると、1～3月の景況判断指数はマイナス34.8となり、前回（2022年10～12月）から9.0ポイント悪化した。燃料費やドライバーの人件費など輸送原価の上昇分を価格転嫁に踏み込めずにいる状況が続き、運送事業者の利益を圧迫している。先行きについても高騰する燃料費や物価高を反映

しマイナス36.0と、さらなる悪化が見込まれる。1～3月は一般貨物の輸送数量、運送事業者の運賃・料金水準、売上高がともに悪化した。輸送数量はマイナス24.8（前回マイナス4.6）、運賃・料金水準は17.9（同19.6）、売上高はマイナス21.1（同マイナス2.9）だった。輸送効率も悪化傾向に転じた。実働率はマイナス17.7（同マイナス8.8）となり、実車率もマイナス16.9（同マイナス7.5）と悪化。ドライバーの採用

動向は低下し、雇用動向売上高ともに改善する。（労働力の不足感がさらに強くなり、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を越えたとしている。運送事業者の経常損益も悪化した。燃料価格の高止まりに対する政府の助成金効果が薄らいた。所定外労働時間が減少し、貨物の再委託（下請け運送会社への委託割合）も減少した。今後の景況感については、マイナス36.0と1.7ポイント悪化を見込む。ただ、感はさらに強まる見込み。

トラック運送業界の景況判断調査は1993年3月から開始し、3カ月ごとに実施している。121回目となる1～3月の調査は、今年4月中旬に回収した分までを集計した。

動向は低下し、雇用動向売上高ともに改善する。（労働力の不足感がさらに強くなり、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を越えたとしている。運送事業者の経常損益も悪化した。燃料価格の高止まりに対する政府の助成金効果が薄らいた。所定外労働時間が減少し、貨物の再委託（下請け運送会社への委託割合）も減少した。今後の景況感については、マイナス36.0と1.7ポイント悪化を見込む。ただ、感はさらに強まる見込み。